

# あなたも感じますか “生きにくい社会”

## —長期引きこもりと高齢化の対策—

☎健康福祉課福祉係 ☎028(677)1112  
健康福祉課地域包括支援センター ☎028(677)6080

### 実は身近な「8050問題」

中高年の引きこもり状態の子の生活を、高齢の親が支えているという「8050（はちまる・ごうまる）問題」を知っていますか。

「引きこもり」という言葉が浸透し始めた約30年前、引きこもりは「若者の問題」とされていました。しかし今、引きこもりが「長期化」し、子も親も「高齢化」することで、さまざまな問題が顕著化してきています。親が高齢になるにつれて困窮の深刻さは増し、社会的に孤立した家族が生活に行き詰まる事例が目立ちます。

平成30年度内閣府公表

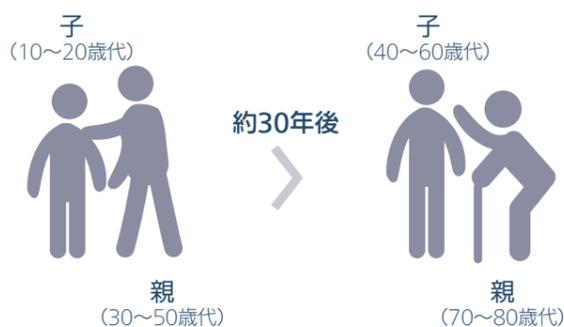
40～64歳の「引きこもり中高年者」  
推計約61万3千人

令和元年度栃木県調査結果

引きこもり状態の人またはその疑いがある人  
1,209人、うち40～60歳代806人

↓  
このうち半数以上が8050問題に  
直面していることが判明

### 8050問題(イメージ)



### 引きこもりは 「不登校の延長」ではなく 誰にでも可能性が

引きこもりは、本人の精神疾患や障がいが必要となることが少なくありません。

一方、退職や失業により社会との接点を失ったり、生活困窮に陥ったりすることも引きこもりの引き金となります。

引きこもりは「不登校の延長」ではなく「誰でも、何歳からでもなり得る」のです。

#### きっかけ

- ・「退職したこと」が最多(先の国の調査結果より)。
- ・病気や性格、不登校など本人の状況や家庭に起因することのほか「就職できなかった」「失業した」が要因として判明(先の県の調査結果より)。

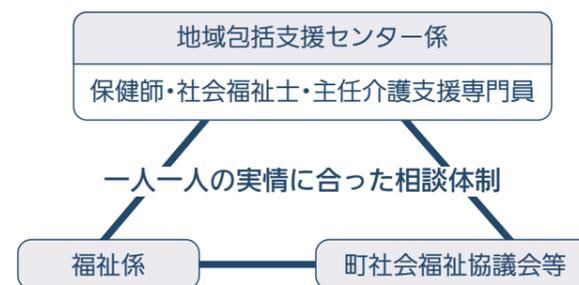
#### 引きこもりを始めた年齢

60～64歳が最も多いものの、大きな偏りは見受けられない(国の同調査結果より)。

### 必要な支援を届けるために

社会的に孤立している人への対応には、多職種、多機関の連携が必要です。

町では、本人や家族の意思に寄り添いながら、介護や障がい者支援サービスなど必要とされる支援につなげています。



▲高齢者向け生きがいサロン(西水沼)

### 孤立を防ぐ鍵は “地域での支え合い”

「引きこもりによる孤立状態」を生じさせないためには、行政だけでなく地域全体で支え合う仕組みも大切です。

町では、関係機関と協力しながら、支援につなげる糸口となる地域活動に力を入れています。



#### 孤立を防ぐ地域活動

- ・高齢者を引きこもりから遠ざける「生きがいサロン」
- ・地域交流の場になる「居場所づくり」
- ・民生委員・児童委員による「地域見守り」
- ・協力事業所による「芳賀町見守りネットワーク」(通称みまネット)
- ・介護について気軽に会話し交流できる「介護カフェ」

### 引きこもり、困りごとに関する相談窓口

地域活動への参加方法などのお問い合わせもどうぞ

障がい福祉・就労 健康福祉課福祉係

☎028(677)1112  
✉ fukushi@town.tochigi-haga.lg.jp

介護予防 健康福祉課  
地域包括支援センター係

☎028(677)6080  
✉ houkatsushien@town.tochigi-haga.lg.jp

困りごと 町社会福祉協議会

☎028(677)4711

※いずれも平日8:30～17:15、土日・祝祭日は休み

※他の相談機関の連絡先は、町ホームページをご覧ください。▶

